

松本洋平文部科学大臣記者会見録（令和8年9月17日）

https://www.mext.go.jp/b_menu/daijin/detail/mext_00729.html

記事ページ本文

現在位置

トップ

>

会見・報道・お知らせ

>

大臣記者会見等

>

松本洋平 文部科学大臣の会見

> 松本洋平文部科学大臣記者会見録（令和8年9月17日）

松本洋平文部科学大臣記者会見録（令和8年9月17日）

令和8年9月17日(木曜日)

教育、科学技術・学術、スポーツ、文化、その他

キーワード

大臣在任中の成果、次期学習指導要領の内容実現に向けた現在の学校現場への対応に関する評価、週刊誌の報道も含めた一連の問題に対する見解及び大臣に求められる資質について、今後取り組むべき課題及び次期大臣への期待、教員のなり手不足解消に向けた見解、平和学習の政治的中立性違反に関する今後の調査結果公表及び是正に向けた期待、デジタル教科書や生成AIを含むデジタルツールの活用における次期大臣への引継ぎ、在任中印象に残った出張先、大臣退任後の科学技術政策への関わりについて

松本洋平文部科学大臣記者会見映像版

令和8年9月17日（木曜日）に行われた、松本洋平文部科学大臣の記者会見の映像です。

令和8年9月17日松本洋平文部科学大臣記者会見（※「YouTube」文部科学省動画チャンネルへリンク）

松本洋平文部科学大臣記者会見テキスト版

後日、アップロードします。

ページの先頭に戻る

お問合せ先

大臣官房総務課広報室

（大臣官房総務課広報室）

ページの先頭に戻る

文部科学省ホームページトップへ

松本洋平文部科学大臣記者会見録（令和8年9月17日）

YouTube字幕

https://www.mext.go.jp/b_menu/daijin/detail/mext_00729.html

YouTubeの日本語字幕

【YouTubeの日本語字幕・公式会見録ではありません】

会見ページ: https://www.mext.go.jp/b_menu/daijin/detail/mext_00729.html

字幕本文をそのまま掲載しています。自動生成字幕には誤認識が含まれます。数字・固有名詞は公式会見録と照合してください。

動画: <https://www.youtube.com/watch?v=A3hb61GiR8U>

字幕の種類: YouTube自動生成字幕

取得日時: 2026-09-17T11:32:56.032847+00:00

[00:00:00] え、冒頭私からは1件となります。え、
[00:00:03] 先ほどの閣議におきまして、え、総理に
[00:00:06] 事表を提出いたしました。え、新しい大臣
[00:00:09] が、え、任命されるまでの間は大臣として
[00:00:12] の職務を継続することとなりますが、令和
[00:00:16] 7年10月に、え、文部科学大臣に就任し
[00:00:19] て以来、ま、今日こうしていらっしゃる
[00:00:21] 記者の皆様も含めまして、大変多くの皆
[00:00:23] 様方にお世話になりました。え、このこと
[00:00:26] に音礼を申し上げたいと存じます。本当に
[00:00:28] ありがとうございました。
[00:00:29] 私からの冒頭発言は以上となります。
[00:00:32] それでは幹事者から質問させていただきます。
[00:00:34] はい。
[00:00:35] 先ほど地表出をされたということで、ま、およそ
[00:00:38] 1
[00:00:38] 年のあの気だったかと思いますが、でも大変お疲れ様でした。
[00:00:41] ありがとうございました。
[00:00:43] 去年10
[00:00:44] 月の衆任会見では大臣現場の声をしっかりと聞いて受け止めながら文部科学行政をしっかりと前に進められるように全力をしたいという風におっしゃっていました。
[00:00:54] ま、これまでおよそ1
[00:00:55] 年間ですね、様々な文部科学関連の、ま、政策において取り分け注力をされた政策、そしてそれに対する自己評価について教えていただけますか？
[00:00:56] [咳払い]
[00:01:06] はい。え、今お話をいただきましたように令和
[00:01:10] 7年、え、10月21
[00:01:12] 日に文部科学大臣に着任をいたしまして、ま、本日が

[00:01:15] 332日ということになりました。

[00:01:18] え、この間、え、私といたしましてはです

[00:01:21] ね、ま、現場主義の徹底ということで、ま

[00:01:23] 、私だけではなくて、ま、文部科学省の

[00:01:26] みんな皆さんと一緒にですね、ま、こうし

[00:01:29] た現場の声をしっかりと聞き、え、そして

[00:01:33] それに基づいた政策を立をし、そして、え

[00:01:36] 、現場の皆さんに届くような、ま、そう

[00:01:38] いう政策を実行していこうということを、

[00:01:41] え、申し上げながら、え、大臣としての、

[00:01:43] ま、勤めを果たしてきたつもりであります

[00:01:45] 。え、特に先の特別国会におきましては、

[00:01:48] え、与野党の委員の皆様との活発な議論が

[00:01:51] あったわけでありますけれども、いわゆる

[00:01:53] 高校無償化の実現、え、中学校35人学級

[00:01:57] の実現、え、デジタルな形態を含む教科書

[00:02:00] の導入、え、アーティストなどにかかる

[00:02:03] レコード演奏伝達権の創設といった、ま、

[00:02:06] 重要な政策を実現するための改正法案。え

[00:02:10] 、これを成立にこぎつけたということは、

[00:02:12] ま、大臣としての役面を一定程度果たせて

[00:02:15] のではないかという風に思っております。

[00:02:18] あ、また印象深いことは多々ありました

[00:02:20] 。あ、そもそも私自身が、ま、文部科学

[00:02:23] 大臣として、ま、仕事をするにあたって

[00:02:26] 問題意識を持っていたのは、今こうした、

[00:02:29] ま、教育も含めた文部科学行政は大きな

[00:02:32] 改革の時にあるということであります。で

[00:02:35] 、その大きな理由は、え、社会が大きく

[00:02:38] 変化をしている中で、え、それに対応をし

[00:02:41] た、え、教育、そして文部科学行政をどう

[00:02:44] 作り上げていくのかという、そういう問題

[00:02:46] 意思験を私自身は持っていたところであり

[00:02:48] ます。ま、そういう意味におきまして、

[00:02:50] 例えば日本成長戦略会議人材育成文化会の

[00:02:54] 、ま、人材育成システム改革ビジョン、え

[00:02:57] 、これを私のもで、え、取りまとめること

[00:02:59] ができたということ。え、そして戦略17

[00:03:02] 分野における課題でありますとか、AX

[00:03:04] 時代における人材需要の構造的変化、ま、

[00:03:07] これらを踏まえまして、ま、産業界と共同

[00:03:09] をし、イノベーションを起こすことの

[00:03:11] できる人材や、ま、現場を支える人材を、

[00:03:15] え、高校から大学、大学院を通じて、え、

[00:03:18] 戦略的に育成していくら信版、え、これを

[00:03:20] お示しすることができたことも、ま、今後

[00:03:23] につがる成果であったという風に考えて

[00:03:25] いるところであります。ま、この他、ま、

[00:03:27] 高校教育改革に関する基本方針の策定、

[00:03:31] 学校給職費の抜本的な負担軽減、え、第7

[00:03:34] 期科学技術イノベーション基本の策定、え

[00:03:38] 、国立大学法人運営費交付金の拡充を含む

[00:03:41] 、え、科学の最高に向けた研究力の抜本的

[00:03:44] 強化。ま、この研究力の抜本的強化に関し
[00:03:47] ましても、ま、これまで、え、なかなか
[00:03:50] この予算を増やすことができなかったこの
[00:03:53] 基盤的経費でありますけれども、え、昨年
[00:03:56] の補正そして、え、今年度の、え、当初
[00:03:59] 予算におきまして、え、これらをしっかり
[00:04:01] と確保いたしまして、ま、科学技術分野で
[00:04:04] ありますとか、研究力の強化に向けた、ま
[00:04:07] 、いわば我が国反転構成のその一方を
[00:04:10] 踏み出すことができたのではないかという
[00:04:11] 風に思っておりますし、また外産要求に
[00:04:14] おきまして、ま、大幅な予算の拡充と
[00:04:16] いうことで要求をさせていただいている
[00:04:18] ところであります。あの、文部間要請に
[00:04:21] ついて、ま、やるべきこと大変多くあり
[00:04:22] ますし、また今後も様々な課題に直面を
[00:04:25] することになりますけれども、え、先ほど
[00:04:27] 申し上げましたように、ま、社会が大きく
[00:04:29] 変化をする中におきまして、我が国の良さ
[00:04:32] としてしっかりと改革を進めるようとする
[00:04:35] からこそ守るべきところは守っていかな
[00:04:37] ければいけないと思いますし、また
[00:04:39] [鼻息]、え、変化する時代、社会を見め
[00:04:41] て、え、見据えながらですね、攻めるべき
[00:04:44] 点はしっかりと見極めながら歩みを進める
[00:04:46] ことが大変重要だと思います。あの、文科
[00:04:49] 省の皆さんには新たな大臣のも、ま、
[00:04:51] 引き続き現場主義を徹底するとに、ま、
[00:04:54] 自らの仕事に誇りを持ちながら1つ1つの
[00:04:56] 課題にしっかりと取り組んでいくことをお
[00:04:59] 願いをしたいと思いますし、ま、私自身、
[00:05:01] え、立場を離れることがなにはなります
[00:05:03] けれども、ま、どのような、え、立場に
[00:05:05] あってもですね、我が国の石ずであります
[00:05:08] 文部科学行政をより良いものとしていく
[00:05:10] ために、え、頑張ってまいりたい、
[00:05:11] バックアップしてまいりたいと思います。
[00:05:13] あの、評価に関しましては、え、これは私自身が下すものではなくて、え、国民の皆さん
によって、え、下だく、え、判断いただくものだと思っておりますので、え、その声に私自身真摯に
耳を傾けていきたいと思います。長くなってすいません。
[00:05:13] [鼻息]
[00:05:28] ありがとうございます。幹事者からもう
[00:05:30] 1問お礼いたします。先ほど現場主義の
[00:05:33] 徹底という言葉が出ましたが、ま、
[00:05:36] 直近では現場の脅威の方々の指針となる
[00:05:39] 時期学習指導要容量の示されまして、
[00:05:42] 調整事業自数制度増ですとか、ま、学校
[00:05:46] 現場の学校現場に余白を生み出すための
[00:05:49] 大きな方向性がとして出されたかと思い
[00:05:53] ます。で、一方で現場の教員不足だったり
[00:05:56] 、ま、長時間労働というのは依前として
[00:05:58] 深刻な状況で課題も散席していると思い
[00:06:01] ます。ま、大臣自身ですね、この1

[00:06:03] 年振り返って、え、取り組みを、あの、取り組みを通じて減価の脅威の方々が新しい指導を余白を持って実行できるそういった環境っていうのはどこまで整理されたという風にありますか？

[00:06:17] はい。あの、まずですね、え、私も現場を

[00:06:20] 回っていく中で、え、児童生徒に、ま、

[00:06:23] 正面から向き合って、え、その指導に

[00:06:26] 当たられておられます、あの、教職委員の

[00:06:29] 皆様方ともの姿を拝見をしまいいりました

[00:06:32] し、またそのお話も多くいいてきたところ

[00:06:35] であります。改めてですね、え、教師と

[00:06:37] いう大変ですね、え、尊い、え、仕事に

[00:06:40] 疲れている皆さんに、え、心から、え、

[00:06:42] 経緯と感謝を申し上げたいと思います。で

[00:06:46] 、その上で、ま、今年3月に公表した調査

[00:06:48] におきましては、ま、国が定める上限時間

[00:06:51] の原則であります、月45時間以上の教師

[00:06:54] の割合が、ま、前年度よりも改善をして

[00:06:57] いる一方で、ま、どの学校種におきまして

[00:06:59] も月45時間を超える教師が一定数存在を

[00:07:03] している状況であるなど、ま、引き続き

[00:07:05] 学校における働き方改革を進めていく必要

[00:07:08] がある。ま、そのように認識をしており

[00:07:09] ます。ま、こうした認識のもで、え、改正

[00:07:12] 急得法を踏まえまして、学校と教師の業務

[00:07:14] の3分類文部科学大臣が定める指針に

[00:07:17] 位置づけるとともに、え、さきの特別国会

[00:07:20] におきましては、え、義務標準法を改正

[00:07:22] いたしまして約40年ぶりに、え、中学校

[00:07:25] の学級編成の標準の引き下げを行うなど、

[00:07:28] え、総合的に取り組みを進めてきたところ

[00:07:30] であります。また、あの、教育家程の観点

[00:07:33] から負担への指摘に紳摺に向き合いまし

[00:07:35] て、時期学習指導容量に向けた検討を進め

[00:07:38] 、え、教師と子供の喪失し、教育の質行上

[00:07:42] につなげられるよう、え、調整授業実数

[00:07:45] 制度の創設などの法策の具体化を進めてき

[00:07:48] たところであります。ま、引続き、ま、

[00:07:51] 教師の働きやすさと働き買いを両立し、ま

[00:07:54] 、全ての子供たちへより良い教育の実現に

[00:07:57] 向けて、え、教育家程の改善と学校におけ

[00:08:00] る働き方改革を一体的に進めていく必要が

[00:08:03] ある、ま、そのように考えているところで

[00:08:05] もありますし、え、またあの働き方改革と

[00:08:08] 同時にですね、やはりその教師というもの

[00:08:11] がそれだけ大変尊い素晴らしい仕事なん

[00:08:14] だっていうことを、え、是非ですね、え、

[00:08:16] 国民の皆さんにも理解をしていただくと共

[00:08:18] に、ま、教師の皆さん

[00:08:20] にも、ま、そうしたことを実感をしていただくことができるようにですね、我々として

は、ま、これから取り組みを是非進めていただきたい。ま、そのように考えているところであります。

[00:08:29] ありがとうございます。監管事者からは

[00:08:32] 各者さんお願いします。

[00:08:34] はい、どうぞ。

[00:08:38] あ、旭新聞の上松です。と

[00:08:41] 1年間お疲れ様。

[00:08:42] はい、ありがとうございました。

[00:08:43] 振り返るということで、あの、大臣のあの

[00:08:46] 過去の不倫報道を巡る一連の経緯について

[00:08:49] 伺いますと、今年3月にあの、一部週刊誌

[00:08:52] で大臣の委任務問題が報道されますと、

[00:08:55] 世の中の注目も大きく集めてで、あの、

[00:08:58] 一部ではその教育のトップを司る文部

[00:09:01] 科学大臣としての支出へも上がりました。

[00:09:04] で、あの、一連の問題は国会にも影響して

[00:09:07] 、えっと、中学の35人学級や高校無償化

[00:09:10] の関連法案の審議が山場を迎える中で委員

[00:09:13] 会の審議日程が延期になるなど混乱も

[00:09:16] おたりました。えと、振り返ってみて

[00:09:18] ですね、改めて事連の問題をどう捉えて

[00:09:21] いらっしゃいますか?で、あとまたあと1

[00:09:23] 年間大臣を務めてこられて改めて感じる

[00:09:26] 文部科学に必要な支出というのは何だとお

[00:09:29] 考えでしょうか?はい。え、ま、文部科学

[00:09:33] 省の提出法案、ま、これをご審議いただい

[00:09:35] ているさ中、また今お話がありましたよう

[00:09:38] に、ま、大変予算関連法案ということで、

[00:09:41] え、大変、え、ま、そうした国会日程的に

[00:09:44] も、ま、厳しい状況の中におきまして、ま

[00:09:46] 、私に関する件で、ま、多くの関係者の

[00:09:49] 方々にご迷惑をおかけすることになりまし

[00:09:51] た。え、大変申し訳なく思っているところ

[00:09:53] であります。あの、おかげ様で、え、多く

[00:09:56] の皆様方にもご理解、ご協力をいただいて

[00:09:58] 、ま、この2本の予算関連法案、え、なん

[00:10:02] とか年度内に成立をさせることができました

[00:10:04] て、ま、4月1日から、え、それぞれ制度

[00:10:07] を無事にスタートすることができたという

[00:10:10] ことは本当に、え、皆様方のご理解、ご

[00:10:12] 協力によるものだとか心からこの場お借り

[00:10:15] いたしましても感謝を申し上げたいと思い

[00:10:17] ます。あの、その上ですね、また、あの

[00:10:20] 、[咳払い]文部科学大臣に求められる

[00:10:21] 支出ということでもありますけれども、ま、

[00:10:24] なかなか一言で申し上げるのは難しい部分

[00:10:26] がありますが、ま、教育、科学技術、学術

[00:10:29] 、スポーツ、そして文化という幅広くまた

[00:10:32] 大変重要なですね、え、そうした行政分野

[00:10:35] を所管しているのが、え、この文部科学省

[00:10:37] だという風に象徴しているところであり

[00:10:39] ます。

[00:10:40] え、文部科学大臣はその責任者として職務の

[00:10:43] 1つ1

[00:10:43] つを誠実に遂行をいたしまして、ま、与えられた籍を全力で全倒すること。ま、これが重

要だと考えているところでもあります。ありがとうございます。

[00:10:55] はい、どうぞ。

[00:10:58] あ、共同と申します。よろしくお願いします。

[00:11:03] よろしくをお願いします。

[00:11:04] ありがとうございます。

[00:11:05] え、学習指導の改定などが進む中での対任ということになりましたけれども、認中にもし積みの落とした課題があるとするのでしょうか?またその調した課題についてですね、時期大臣に対してあのどのように取り組んでもらいたいかがあればお願いいたします。

[00:11:18] はい。え、ま、これからですね、継続的

[00:11:21] に対応が必要なことという観点から

[00:11:24] 申し上げますと、え、例えば私の元で、え

[00:11:27] 、先ほどお話をしたように人材育成

[00:11:29] システム改革ビジョン、ま、これを

[00:11:30] 取りまとめたところでありますが、ま、本

[00:11:33] ビジョンに基づく高校教育と高等教育の

[00:11:35] 一体的改革、え、これは未だ道半ばであり

[00:11:39] ます。ま、今後関係施策の実現に必要な

[00:11:42] 予算を確保し、え、さらに加速をする必要

[00:11:45] があると考えております。え、また、え、

[00:11:47] ノー賞を受賞された坂口先生、え、北川

[00:11:50] 先生からも、え、基礎研究支援や若手研究

[00:11:53] 者の育成について、ま、直接ご意見をいい

[00:11:56] ていたところでありますが、ま、我が国の

[00:11:58] 科学の最高に向けました研究力の抜本的

[00:12:01] 強化も、え、給務と考えているところで

[00:12:04] あります。え、先ほどお話をしたように

[00:12:06] 昨年の補正、そして今年度の当初で、え、

[00:12:09] その反転構成となるその一步を踏み出す

[00:12:12] ことはできたと思っはいますけれども、

[00:12:14] ま、今回外産要求でも、ま、これらの予算

[00:12:17] 大幅に拡充をして要求をしたところであり

[00:12:19] ますが、あのこの予算に象徴されるように

[00:12:23] ですね、ま、この分野におきましてこれ

[00:12:25] から、え、さらなる、え、取り組みを進め

[00:12:27] ていくことが大変重要だと思っています。

[00:12:29] ま、この他の分野でも、ま、やるべきこと

[00:12:31] は多くあると認識をしておりますので、ま

[00:12:34] 、今後とも文部科学省一眼となって議論を

[00:12:37] 深め、え、それぞれの、え、政策を前に

[00:12:39] 進めていただきたいという風に、え、考え

[00:12:41] ておりますし、私としても文部科学行政を

[00:12:44] 前に進めていくために今後も、え、どの

[00:12:46] ような立場であっても、ま、貢献をして

[00:12:48] いきたい、そういうように考えている

[00:12:50] ところであります。

[00:12:51] その上で、え、このご次的大臣になられる方につきましては、え、是非ですね、え、そのご検識を生かして、ま、存分にご活躍をいただきたい、そのように思っております。

[00:13:05] はい。新聞のです。

[00:13:13] 1年間

[00:13:14] ありがとうございます。

[00:13:16] 教員のり確保室の向に関するについてお伺いします。

[00:13:20] えっとについて先ほどという風に

[00:13:23] おっしゃっていましたが学校現場では内手

[00:13:26] のであるとかあとはまくその他あの忙しさ

[00:13:29] があったりとか作用倍率の電荷などがな

[00:13:32] 課題となっていると思います。

[00:13:34] え、来年度予算では教職の魅力についてあの新共予算をしています、教職の魅力を高めることについて松本大臣にも直な思いと認め、え、文科学大臣にどのように引をされるのか、そのようなことを求めるかをお伺いします。

[00:13:51] はい。え、ま、文部科学大臣に就任をして

[00:13:54] から、え、先ほどお話をしているように、

[00:13:56] ま、多くの学校を始をいたしまして、現場

[00:13:59] を拝見をし、そして、え、教職員の皆さん

[00:14:01] との意見交換もさせていただきました。

[00:14:04] あの[鼻息]、改めて教師という職業の尊

[00:14:07] さ、掛けえなさというものを実感をして

[00:14:09] いるところであります。あの、教師

[00:14:11] の定不足解消、そのために教師という職業

[00:14:14] や、ま、その働く場としての学校より一層

[00:14:17] 魅力化していくことが大変重要なことだと

[00:14:19] 思っております。ま、そうした思いもあり

[00:14:21] まして、これまで文部科学省といたしまし

[00:14:23] ては、ま、教師が働きがいと働きやすさを

[00:14:26] 共に実感できる環境整備を進めてきた

[00:14:28] ところであります。また、え、中教心に

[00:14:31] おきましては、え、教師を障害にわって

[00:14:33] 学び続けられる魅力溢れる仕事にできる

[00:14:36] ようにするための法策をご議論をいただい

[00:14:39] ているところでありまして、え、教師に

[00:14:41] なったものへの学部段階の奨学金返金支援

[00:14:44] 、え、変換支援等の仕組みの構築について

[00:14:46] も、ま、ご意見をこの場で頂いている

[00:14:49] ところでもあります。え、さらに令和9

[00:14:51] 年度外産業要求におきましても、ま、教職

[00:14:53] の魅力向上に向けた意欲的な目標とその

[00:14:57] 実行計画を定めた自治体を支援する新規

[00:15:00] 事業を盛り込むとともに、ま、法改正も視野

[00:15:03] に入れつつ、え、教師になったものに

[00:15:05] かかると奨学金等経済的負担のさらなる

[00:15:09] 軽減等についても、ま、事項要求を行った

[00:15:12] ところであります。あの、先ほども、ま、

[00:15:16] 教職の重要さ、尊さという話をさせて

[00:15:20] いただきましたが、やはりあの全ての国の

[00:15:23] 政策、経済、社会、ま、そうした活動と

[00:15:26] いうものは全て人が行うものであります。

[00:15:30] え、そういう意味では全ての活動、全ての

[00:15:35] 施策、全ての、ま、ありとあらゆるですね

[00:15:37] 、事象のやはり1番の、え、基本にあるの

[00:15:40] はやはり、え、人だと思います。そして

[00:15:43] その人を育てるのが、ま、教育だと思い

[00:15:46] ます。そしてそうした教育を実際に現場で

[00:15:50] 行っているのが、え、教職員の

[00:15:52] 皆様方です。ま、そういう意味に

[00:15:55] おきましては、え、こうした教職員の

[00:15:57] 皆様方の、え、魅力を向上を図り、ま、

[00:16:00] より多くの人たちに、え、こうした仕事に

[00:16:03] 憧れを持って入ってきていただく、使命感

[00:16:06] を持っていただく環境を作るということは

[00:16:08] 、これはあの社会全体、国全体に比益を

[00:16:11] する、ま、そういう事柄だと私自身は思っ
[00:16:14] ているところであります。ま、そういう
[00:16:16] 意味からもですね、ま、是非こうした、え
[00:16:19] 、様々な取り組みというものを通じて今
[00:16:21] 申し上げたような思いが、え、教職員の皆
[00:16:24] さん、そして国民の皆さん1人1人に届け
[00:16:26] ばいいなというのを私自身思っております
[00:16:28] 。あの、公認の大臣におかれましても是非
[00:16:31] ですね、ま、これらの方向性、また中教心
[00:16:33] をはめとする様々な皆さんの議論という
[00:16:36] ものも踏まえながらですね、え、是非、え
[00:16:38] 、取り組みを進めていただければと思い
[00:16:40] ます。
[00:16:41] あの、大臣、あの、次の大臣の方ですね、え、ご答を心からお祈りを申し上げたいと思
いますし、ま、私もあの、バックアップをしてまいりたい。そのように思います。
[00:16:52] ありがとうございます。
[00:16:57] [鼻息]
[00:16:59] 産経新聞の森です。
[00:17:00] 1
[00:17:00] 年間どうもお疲れ様でした。ありがとうございました。
[00:17:03] あの、ま、その大臣の在任期間中、やはり
[00:17:05] ですが、あの、非常に大きな出来事として
[00:17:07] 、あの、平和学習に対する、え、教育基本
[00:17:10] 法違反、まだ、あの、政治的立で違反して
[00:17:12] いるという、あの、見解の公表がありまし
[00:17:14] た。これはあの、戦後発の判断ということ
[00:17:17] で極めて、え、難しい判断はあったと思う
[00:17:20] んですけども、そういった、ま、難しさ
[00:17:22] も含めてこの見解の公表をどう振り返える
[00:17:25] のかということ。あと、えっと、その後の
[00:17:28] 文科書の追加調査の中でこう一部に
[00:17:31] いわゆる変更したような平和教育、ま、
[00:17:34] 政治的中立性が担保されていないような
[00:17:36] 平和教育というものも、え、見直しに進ん
[00:17:39] できてるという実態も明らかになってきて
[00:17:41] いるようです。ま、そこら辺この次の大臣
[00:17:44] も含めてあのが進んでいると現状どうお
[00:17:48] 考えになってますでしょうか?はい。え、
[00:17:51] 改めてですね、ええ、への件につきまして
[00:17:56] 、ま、お亡くなりになられた方に愛等の意
[00:17:59] を表すると共に、ま、お怪我をされた皆様
[00:18:01] に心からお見舞いを申し上げたい。え、
[00:18:04] そのように思います。あの、令和8年3月
[00:18:06] に、え、同者国際高校における公外学習中
[00:18:09] に、ま、生徒に支障者が出た重大な事故が
[00:18:13] 発生したことについて改めて極めて遺憾で
[00:18:16] あるということ。え、そして、え、今後
[00:18:18] 2度と、え、繰り返さないこと、え、これ
[00:18:20] が、ま、重要だと、え、考えているところ
[00:18:23] であります。あの、[鼻息]ご指摘の
[00:18:25] フォローアップにつきましては、ま、現在
[00:18:27] 集計を進めているところでありまして、ま
[00:18:29] 、作業が完了次第、ま、速やかに、え、

[00:18:31] 公表したい、そのように考えているところ
[00:18:33] であります。ま、いずれにいたしましても
[00:18:36] 全国の学校においては、ま、教育基本法
[00:18:39] などに基づきまして特定の見方、考え方に
[00:18:42] 偏った取り扱いとならない形で平和習を
[00:18:46] 実施していただくことが必要でありまして
[00:18:48] 、そうした方向で取り組みを進めることが
[00:18:51] 、ま、重要である。え、そのように、え、
[00:18:53] 考えているところであります。
[00:18:59] はい。
[00:19:08] 毎日新聞の井川と申します。
[00:19:10] はい。お疲れ様で。
[00:19:11] ありがとうございます。
[00:19:13] えっと、まだですね、あの途中の導入に向けて議論が進んでいるデジタル教科書などについて伺いできればと思います。あの大臣はこれまであの小学校の低学年と国語、社会、同徳においてはデジタルの科書を認めるべきではないかの方針をあの示していらっしゃいました。
[00:19:30] で、公認の方にもその認識は引き継いで
[00:19:33] いくお考えでしょうか?また今後その学習
[00:19:36] 指導やデジタル教科書の議論が大詰めを
[00:19:38] 迎えるようなことになりましたが、ま、あの
[00:19:42] 急速に浸透しているあの生成AIやツール
[00:19:45] について公認の方に共有しておきたいあの
[00:19:48] 考えなどはありますでしょうか?もしあれ
[00:19:50] ばお伺いしたいです。よろしくお願い
[00:19:51] いたします。はい。え、ま、ご指摘の全て
[00:19:54] がデジタルな教科書の扱いについての答弁
[00:19:57] は、ま、法案審議の際にも、ま、これまで
[00:20:00] 、え、中教心でありますとか有識者会議で
[00:20:02] の議論、また、あの、現行の教科書団体
[00:20:05] 代替のデジタル教科書についての取り組み
[00:20:08] 状況なども踏まえまして、え、その時点の
[00:20:11] 考えとして私としてお答えをしたもので
[00:20:13] あります。あの[鼻息]、新たな教科書の
[00:20:15] あり方につきましては、ま、今後公認の
[00:20:17] 大臣のもで秋頃に策定される指針の中で、
[00:20:20] ま、示していく予定になっておりまして、
[00:20:23] ま、現在有識者会議でご議論をいただいて
[00:20:25] いるところであります。あの、また生成
[00:20:28] AI等のデジタル技術でありますけれども
[00:20:30] 、ま、児童生徒1人1人のニーズであり
[00:20:33] ますとか、ま、特性にあった学びを支援に
[00:20:35] 、え、支援をすることに指する一方で、ま
[00:20:38] 、活用の仕方によっては必要な学習家程が
[00:20:41] 省略されてしまうというようなことのと
[00:20:43] いうようなリスクもあり得うということ
[00:20:45] であります。ま、適切な利活用のためには
[00:20:48] メディアリティアラシーや、え、情報
[00:20:51] モラルを含めました情報活用能力の育成を
[00:20:54] 図るとともに安全かつ主体的にAIを活用
[00:20:57] できる学習環境を構築することが必要だと
[00:21:00] 考えております。あの、これらはいずれも
[00:21:02] 我が国の未来を担う子供たちを育むための
[00:21:05] 新たな学びを具体化していく上ですね、

[00:21:08] ま、重要な課題であると考えております。

[00:21:11] あの、公認の大臣には、え、先ほど

[00:21:13] 申し上げております通り、ま、現在これ

[00:21:15] 中教心でありますとか、また有識者の皆

[00:21:17] さんにも、ま、ご議論をいただいている

[00:21:19] ところであります。ま、これらの議論と

[00:21:21] いうものを踏まえると共にですね、ま、

[00:21:23] デジタルの力で、え、リアルな学びを

[00:21:26] 支えるとの基本認識に立ちまして、円滑な

[00:21:29] 導入、環境整備のための、え、丁寧な検討

[00:21:32] 対応を進めていただきたい。のように考え

[00:21:34] ておりますし、私自身何度も申し上げて

[00:21:37] 通りデジタル化を進めることでは目的では

[00:21:40] なくて、やはり子供の学びた、子供の子供

[00:21:44] たちの学びの質を高め、え、そしてそれを

[00:21:47] 深め、え、そして自らその探求していく

[00:21:50] そうした主体的な心を育む1つの道具とし

[00:21:53] ての位置づけだという風に承知をしている

[00:21:56] ところでもありますし、またそうした観点

[00:21:58] に立って、え、中教心でありますとか、ま

[00:22:00] 、有識者会議では議論をいただいと

[00:22:02] う風に承知をしております。え、是非

[00:22:04] ですね、え、そうした有識者、また中教心

[00:22:07] での議論というものをですね、ま、

[00:22:09] しっかりと行っていただきたい。そのよう

[00:22:10] に思っております。

[00:22:15] あ、じゃあ手前からはいい。

[00:22:22] あ、NHKのお疲れ様でした。はい、

[00:22:24] ありがとうございます。ありがとうございます

[00:22:25] ました。あの、在任機関、大学研究機関

[00:22:28] など国内問わず出張されていたと認識し

[00:22:31] てます。

[00:22:32] え、特に印象に残った主張先は何かということと、こうした視察の試験がどうい文学要行政に生活かされたかということをお教えください。

[00:22:41] はい、ありがとうございます。あの、ま、大臣就任以来、え、現場の声を聞き、ま、文部科学行政に生かすという観点から、え、学校文化、スポーツ施設機関など、ま、様々な場所を訪問をいたしました。

[00:22:55] [鼻息]

[00:22:55] え、国内は、あ、出張で30回、え、で、

[00:22:59] 海外は2回、3カ国ということでお伺いを

[00:23:02] したところであります。ま、それぞれの

[00:23:05] 訪問先で大変勉強をさせていただいた

[00:23:07] ところでありますけれども、あの、ま、

[00:23:10] 全てが印象に残ってるわけではあります

[00:23:12] 、ま、特に印象に残ったものとして例えば

[00:23:14] ですね、え、つば市立緑の学園義務教育

[00:23:18] 学校をはじめといたしました。ま、多くの

[00:23:21] 学校現場では、ま、ICT教育を実施して

[00:23:24] いる現場の声を伺ったり、またあの児童

[00:23:27] 生徒が非常に主体的に勉強している様子を

[00:23:29] 見ることができたりしました。ま、これら

[00:23:31] のなんて言うんですかね、え、私自身が

[00:23:35] 実際に現場で見きしたということ、

[00:23:37] ま、先ほどもお話がありましたけれども、
[00:23:40] え、そのデジタル教科書の導入に際しては
[00:23:42] 、え、様々参考にさせていただいたところ
[00:23:44] でもあります。[鼻息]また先般は令和8
[00:23:47] 年熊本地震の、ま、被災地を訪問をいたし
[00:23:50] まして、ま、その被害の大きさを、ま、
[00:23:52] の当たりにすると共にですね、ま、子供
[00:23:54] たちの学習環境の確保でありますとか、
[00:23:56] 学びの継続性の重要性を実感したところで
[00:23:59] あります。あの、現場の声を踏まえまして
[00:24:02] 、ま、スクールカウンセラーの追加配置を
[00:24:04] 全国、全額国費で実施することを始めと
[00:24:06] いたしまして、ま、国として引き続き被災
[00:24:09] 地と共に歩み、え、支援に全力で取り組む
[00:24:11] 考えをお伝えをしたところであります。
[00:24:14] あの、私自身ですね、あの、これらの視察
[00:24:18] に関して、あの、一貫して、え、続けてき
[00:24:21] たことはですね、あの、見るだけではなく
[00:24:23] て、え、実際に交流をする、話をするって
[00:24:26] いうことを私は徹底をしてきたつもりで
[00:24:29] あります。で、とりわけ学校現場などに
[00:24:32] おきましては、え、教職員の皆さんとの
[00:24:35] 意見交換だけではなくて、ま、行く先々で
[00:24:39] ですね、え、実際にそこで通って
[00:24:41] いらっしゃる子供たちとの意見交換って
[00:24:43] いうものも色々とさせていただきました。
[00:24:47] え、そうすると、ま、本当にですね、え、
[00:24:49] 子供たちが、ま、キラキラ目を輝かせ
[00:24:52] ながらですね、え、学校で一生懸命頑張っ
[00:24:54] ている姿、また色々な苦勞があった。そう
[00:24:58] した生徒、児童生徒の苦勞話をお聞きを
[00:25:01] することもたくさんありましたし、また
[00:25:04] 将来こんなことをやりたいっていう、そう
[00:25:06] いう思いを持っている子供たちのそうした
[00:25:08] 声も聞きました。また、そうした様々な
[00:25:11] 状況に置かれている児童生徒と、ま、正面
[00:25:14] から向き合って一生懸命頑張って
[00:25:16] いらっしゃる、ま、教職員の皆さんの姿も
[00:25:19] 拝見をし、いろいろなお話を聞くことができ
[00:25:22] ました。あの、本当にですね、え、これ
[00:25:24] までの間、え、そうした現場、現場で色々
[00:25:26] とご対応いただいた皆さんに心から、え、
[00:25:29] 感謝を申し上げたいと思います。また、
[00:25:32] あの、我が国の研究力の向上政策のため、
[00:25:34] ま、多くの大学や研究機関との意見交換も
[00:25:37] 行ってきたところであります。あの
[00:25:39] [鼻息]、京都大学の施におきましては、
[00:25:41] ま、国際卓越研究大学としての認定を進め
[00:25:44] ていくことを公表したことに関連をいたし
[00:25:46] まして、ま、意見交換を行うと共に、え
[00:25:49] 、物質細胞統合システム拠点WPI
[00:25:52] アイセムスと京都大学IPS細胞研究所を
[00:25:56] 視察をいたしまして、ま、世界最先端の

[00:25:59] 研究開発の現場にも、え、触れてきた
[00:26:02] ところであります。また、あの、海外に
[00:26:04] おきましてはエジプト、ベトナム、
[00:26:06] カンボジアというこの3加国を訪問を
[00:26:08] いたしましたけれども、改めてその日本の
[00:26:11] 教育に対する、ま、高い評価というものの、
[00:26:15] え、そしてそれぞれの国がこの日本の教育
[00:26:18] というものを是非自分たちの国にも、ま、
[00:26:21] 導入をしたいという、そういう意見を直接
[00:26:23] お伺いをしたところでありまして、ま、
[00:26:26] そういう意味ではやはり我が国のその教育
[00:26:29] の、ま、良きというものを改めて再認識を
[00:26:32] するととともに、ま、それらをしっかりと
[00:26:35] 伸ばしていく、え、そして、え、改革を
[00:26:38] 進めていく部分が変わっていく。で、それ
[00:26:40] だけではなくて、え、こうした分野におい
[00:26:42] ても私たちの国が、え、世界に色々と貢献
[00:26:45] できる分野があるということも改めて通感
[00:26:47] をしたところであります。え、スポーツ
[00:26:50] 文化分野におきまして、ま、ハイ
[00:26:51] パフォーマンススポーツセンター等の、え
[00:26:53] 、最先端施設や国立劇場、文化剤主福現場
[00:26:56] の視察、またトップアスリートへの科学的
[00:26:59] 支援や部活動の地域、伝統芸能の継承や
[00:27:02] 文化財を守るサプライチェーンの維持と
[00:27:04] いった、ま、今後の予算確保でありますと
[00:27:06] か、ま、具体的なガイドライン策定を含む
[00:27:09] 、え、各策の基盤強化に、ま、つなげてき
[00:27:11] たところであります。あの、本当にこうし
[00:27:14] てですね、え、数多く、ま、現場にできる
[00:27:17] 限り時間を許す限り運んで色々な、え、
[00:27:20] ことを学ばせていただくことができました
[00:27:23] し、え、それを、ま、文部科学行政に
[00:27:25] 生かすために、ま、全力を尽くしてきた
[00:27:26] つもりであります。あの、全てはやはり
[00:27:29] 現場の皆さんの力があってこそ、え、
[00:27:32] 文部科学要請であります。お世話になった
[00:27:34] 皆さんに心から感謝を申し上げたいと思い
[00:27:36] ます。ありがとうございます。ございます
[00:27:39] 。はい、どうぞ。
[00:27:42] あ、ありがとうございます。日韓工業新聞者の説ありがとうございました。
[00:27:47] あの、今回、あの、オ部大臣の立場を離れてしまうと思いますが、あの、今後科学技術政
策に対してどのように貢献していきたいと考えているのでしょうか?お考えをお願いします。
[00:27:59] はい。あの、ま、この1
[00:28:00] 年間、ま、文部科学大臣として、ま、科学技術政策、ま、これを進めてきたところであり
ます。
[00:28:06] あの、繰り返しになる部分もありますが、
[00:28:08] 昨年、ま、坂口先生、北川先生、ま、お
[00:28:11] 2人のノーベル賞、お2人がノーベル賞を
[00:28:13] 受賞されたわけでありますけれども、ま、
[00:28:15] お2人からは基礎研究への支援拡充の必要
[00:28:18] 性でありますとか、若田研究者が自由な
[00:28:21] 発想で、え、様々な研究に取り組めるよう

[00:28:23] な環境の必要性について、ま、お話を
[00:28:26] いただいたところでありまして、ま、それ
[00:28:27] が大変印象に残っているところでもあり
[00:28:30] ます。あの、国力の基盤となるのは、ま、
[00:28:32] 人材力であり、そして成長を牽引のは、ま
[00:28:35] 、科学技術の力である。ま、そのように
[00:28:37] 強く感じているところであります。あの、
[00:28:40] 第7期科学技術イノベーション基本計画の
[00:28:43] 柱の1つであります。我が国の科学の最高
[00:28:46] に向けて、え、令和7年度補正予算及び令
[00:28:50] 和8年度投資予算におきまして、え、国立
[00:28:52] 大学法人運営費交付金でありますとか、え
[00:28:55] 、家費の大幅な増額をはめとする、え、
[00:28:58] 研究力の抜本的強化に必要な予算を確保
[00:29:01] することができた、え、そして事業を
[00:29:03] 進めることができたということは大きな
[00:29:06] 1本だ、一歩だったと思っておりますし、
[00:29:09] ま、反転構成につながるそうした一歩をお
[00:29:12] 様で踏み出すことができたんじゃないかと
[00:29:14] 思っております。是非これをさらに進め
[00:29:17] ていくために、ま、令和9年度の外産要求
[00:29:19] におきましては、え、これらの大幅な増額
[00:29:22] というものも予算要求をしているところで
[00:29:25] あります。あの[鼻息]、基本計画に
[00:29:27] 基づく取り組みはまだ始まったばかりで
[00:29:30] ありますけれども、ま、文部科学を離れ、
[00:29:33] ま、どういう立場になったとしてもですね
[00:29:35] 、あの、文部科学大臣として、ま、これ
[00:29:38] まで進めてまいりましたこれらの取り組み
[00:29:40] をですね、ま、引き続き形にしていくこと
[00:29:42] ができるように私自身、ま、全力を尽くし
[00:29:45] て、ま、応援をしてまいりたい。え、その
[00:29:47] ように思っております。
[00:29:52] 他よろしいでしょうか？
[00:29:55] それでは松本大臣記者会
[00:29:58] はい、あの最後になりますけれども改めまして本当に
[00:30:02] 1
[00:30:02] 年弱の間でありますけれども駅者の皆様方にも大変お世話になりまして本当にありがとう
ございました。え、心から感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。